

新島の志

八 田 英 二

奨励者紹介〔はった・えいじ〕
学校法人同志社総長・理事長

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

(ヨハネによる福音書 3章16節)

悲しい出来事

学校法人同志社総長・理事長の八田と申します。今日は「新島の志」ということでお話をさせていただきます。同志社総長として新島襄から数えると私は18代目となります。4月21日がキリスト教の復活祭ですから、その前にお話ができるということは光栄に思います。

4月という忘れてはならない日がございます。4月25日、多くの方々は忘れておられるかもしれません。一般の言葉によると「風化」していると言われるかもしれません。2005年4月25日、JR福知山線脱線事故がありました。その時、私は学長をしております、月曜日の朝、大学で会議をしていたところ第一報が入りました。JR福知山線脱線事故で、同志社の学生が事故に遭ったらしい、と。当時、JR福知山線からくる列車のうち、前方の数両だけは京田辺駅で切り離されて同志社前に行くことになっておりましたので前方の車両に多くの同志社の学生が乗っておりました。そのため、大多数の、特に新入生は1、2、3両目に乗っており、事故に遭いました。「何か事故があったらしい」ということで会議をすぐに中止して学長室でテレビをつけました。結局、同志社の学生3名、全員女子学生でしたが、亡くなりました。今でも名前を覚えておりますが、法学部法律学科の学生と社会学部メディア学科の学生、文学部英文学科の学生の3名の女子学生が亡くなり、30数名が重軽傷で病院に収容されるという悲しい事故がございました。お通夜に行った時、ある一人の学生は関西大学附属の高校出身でしたが、お母さんが「あのまま関西大学に進学していたら、こんなことにならなかった」と嘆いておられたことを今でも覚えております。3名の若い同志社の学生が夢半ば、志半ばで将来を絶たれてしまったという悲しい出来事でした。それまで私は1度も大学に泊まったことはなかったのですが、副学長と一緒に学長室で徹夜をして第二報、第三報を待ったというのが、4月25日、JR福知山線脱線事故でした。4年後、その時も学長でしたが、卒業式の時、その事故によって両足を切断した学生に卒業証書を渡しました。これは同志社にとって忘れてはならない、風化させてはならないことであり、教育機関として学生の安全・安心を最大限優先して守らなければならないと、今でも胆に命じております。いつも4月になりこういう機会を与えられると、亡くなった3名の学生のこと、脱線事故のことを思い浮かべ、そして皆さま方にこういうことがあったとお伝えするのも、教員として、あるいは管理を任せられている者としての使命だと考えております。

「夢」と「志」

今日は夢、志についてお話ししたいと思います。そして「新島の志」につなげていきたいと考えています。皆さまは夢、志、目標をもって同志社に入ってきたと思います。夢、目標、志、どこが違うのか。多分、夢と志は同じだと考えておられるかもしれませんが、目標と夢はどう違うんだろう、夢と志、目標はどう違うんだろう、漠然と分かっておられるかもしれませんが、特に夢と志の違いについてお話をしたいと思います。

宣教師として日本に派遣されることになっていた新島は、日本に帰る1年前の1874年10月、アメリカのバーモント州ラットランドのグレース教会で開催されたアメリカンボードの年次総会で「志」を聴衆にお話ししました。その志にアメリカの方々は共感したからこそ、5000ドルの寄付が集まった。貧しい農夫も自分の帰りの汽車賃2ドルを捧げてくれた、こういう有名な話もあります。新島は夢を語ったのではなく、「志」を語ったからこそだと考えております。

目標、夢、志はどのように違うのか。過去から現在までの延長線上にあるような、実現可能なものを目標というのではないかと。たとえば「1日に5時間勉強する」、これは目標だと思います。夢でもありませんし、志でもありません。過去から現在、その延長線上にあって実現可能な、検証可能なものを私たちは目標と言っているのではないのでしょうか。では、夢とは何か、志とはどう違うのか。たとえば「私は将来、幼稚園の先生になりたい」と子どもが言う、これは夢だと思います。どこが違うのか。将来、幼稚園の先生になりたいという夢は個人的な願望でもあると思います。利己的な願望、これを私たちは夢と呼ぶと思います。それ以外にも、夜中に眠りながら頭の中に出てくること、これも夢です。個人的な、利己的な願望、将来このようになりたい、あってほしいというのが夢。

では「志」とは何か。個人的な願望の向こうに社会的なつながり、社会的な広がりをもった、対人関係において何らかの影響を及ぼすような具体的な構想、将来的な願望を「志」と言うのだと考えています。社会的な広がり、これが夢と志の違いではないかと。「私は幼稚園の先生になりたい」、これは夢だと思います。個人的な利己的な将来の展望。「自分は幼稚園の先生になって幼児教育に打ち込んで、その中から将来のことを考える、もう1歩先、2歩先も考えるような子どもを教育したい」という考えをもった人が「志」をもった人ではないかと。社会的な影響力、社会的なつながり、自己ではなく他の人のことまでも考える、つながりをもつ将来的な構想を志と呼ぶのではないかと。新島がラットランドの教会で「自分は将来、日本でキリスト教主義の大学をつくりたい」、それだけを語れば、新島は夢を語っただけだと思います。夢を語っただけでは人々の共感は得られなかっただろうし、日本に帰る青年に5000ドルの寄付は集まらなかったと思います。新島は夢を語ったのではなく、志を語ったのだと思います。

「リベラルアーツに基づく大学をつくりたい」。リベラルアーツの大学には二つの意味があります。一つは学術・技芸の知識を教授する。もう一つは人格形成。この二つの社会的使命を果たすのがリベラルアーツ大学であり、新島はその人間形成、人格形成の部分をキリスト教主義に基づいて行いたい、そして良心とも呼ぶべき、現代的な用語で言えば、近代主義を日本の社会に生み出したい、と考えます。鎖国から新たな開国に移り近代化して社会を動かしていく原動力になる、その底辺となる「近代市民を同志社で育てたい」という将来構想を語ったからこそ、また、自分のその将来構想が社会とどのようなつながりをもつのか、これを語ったからこそ、聴衆の共感を呼び、献金、寄付金が集まったのだらうと。そういう志を新島は語った。これが夢と志の大きな違いではないかと思っています。

メッセージ

私は今まで学長をしていた15年間の間に卒業式を何回経験したでしょうか。100回以上、卒業式でお話をしました。今回、総長になってからも、春だけで大学で8回卒業式を執り行いました。女子大学で3回、各中高もありました。すべて最後は「志」というところにお話をもってまいりました。そして「同志社という3文字の中の『志』、これを大事にしてほしい。『志』をもってこれから卒業生の皆さんは将来に向かって歩み続けてほしい」というお話をしました。決して「夢をもちなさい」とは申しませんでした。夢は、皆さん誰でももっていると思います。将来、こうなりたい、将来、自分の一生をかけてこういう方向で社会に関与していきたい、社会との関係をもち続けたい、社会をこう変えていきたい。社会と言ってもすべてでなくてもいい、自分の身の回りでもいいと思います。自分だけのことではなく、自分の存在によって社会を、小さな社会でも、大きな社会でも、そこにどのように関与していくか、「志をもち続けてください」ということを各卒業式で卒業生にお願いをする。そして「志」をどのようにして実現して現実のものにしていくのか、その土台、基盤を整備するのが同志社という教育機関であるとして卒業生の方々にお話をしております。

新入生の方もおられると思います。せっかく同志社に入ってきた。学術、芸術は各大学、高等教育機関すべて共通に教えることですが、人格形成の部分において同志社は、独自の、際立ったキリスト教主義に基づく、高い教育理念をもっております。そのような教育を受け、自分の「志」をもち、社会的な広がりにつながる将来構想を、ぜひとも4年間で確立していただきたい。そうして「志」の実現に向かって着実に、この4年間、自己研鑽に努めていただきたい。「志」を語れる人間になって同志社を卒業していただきたい。そのように考えております。

夢と志の違い。どのように他の人々、社会と、自分の将来の構想がからんでいくのか、これが夢と志との大きな違いだと考えています。

どうぞこれからの4年間、同志社で「志」を見つけていただきたいと思います。そして自分の受けた生を、ぜひとも「志」を実現するために輝かせて、人生を充実して過ごしていただきたいと考えております。新島襄は、私ども教職員に「そのような学生を育てるように」と望んだことだと思います。そういう「新島の志」、これを大事に私ども教職員は同志社の教育に打ち込んでいきたいと考えています。皆さんも「志」を大事にしていきたいと思います。ありがとうございました。

2019年4月16日 今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録